



ロジェ・ルソー氏

長（兼理事長）はロジェ・ルソー氏。

文化行事

モントリオール大会での文化行事は、カナダの代表的文化、芸術活動を中心に展開する。内容は、カナダのトップクラスの芸能人（グループまたは個人）によるオペラ、オペレッタ、バレエ、モダン・ダンス、フォーク・ダンス、コンサート、リサイタル、演劇、映画上映などに、絵画や彫刻、手芸などの展示と製作、と多彩。

エリザベス女王

オリンピック大会の開会式は七月十七日。カナダの国家元首であるエリザベス女王が開会を宣言する。

オリンピック放送・報道

オリンピック大会は世界的な報道戦でもある。モントリオール大会には世界各国から放送記者およそ三千人、新聞・雑誌記者約二千人、通信社の運動部記者約五百五十人が、この取材合戦に参加する。モントリオールにおかれた百のラジオ・スタジオ、二十のテレビ・スタジオからは、大会の様子が通信衛星を通じて、あるいは録画などによって、七十以上の言葉で世界中に放送される。テレビおよびラジオ放送に必要なあらゆるサービスや

機材（音声、フィルムを含む）は、カナダ放送会社が設立したORTO（オリンピック・ラジオ・テレビ組織）が提供する。

なお、プレス・センターは都心の近代的建物プラス・デジャルデン内にあって、あらゆる報道用施設が完備している。

日本へのオリンピック中継は、NHKと民放が共同で行なう。NHK四十八人、民放十九人、計六十七人からなる共同取材班が取材、制作に当たり、開・閉会式をはじめ、競技の様態などを中継する。

テレビは大会中五十時間日本へ衛星中継、ラジオは約九十時間送信され、各局がそれぞれ生中継や録画再放送を組む。

オリンピック

マスケット

モントリオール・オリンピック大会の

マスケットは、カナダの歴史に重要な地位を占めるピーパー。勤勉と忍耐強さで知られるこの小動物は、毛皮交易を中心とした初期のカナダにおいて、経済、開拓の両面で大きく貢献したことが認められて、カナダのシンボルとして大切にされているほか、硬貨や切手のデザインにも使われている。このマスケットは、インディアンのアルゴンキン語でピーパーを意味する「アニック」と名付けられている。



主要財源はオリンピック富クジ、記念切手、記念硬貨、入場券などの売上げ、ラジオ・テレビの放送権と免許、売店の出店権からの収入。

連邦政府の立法措置による富クジ、記念硬貨、記念スタンプの販売により、三億六千万ドルの財源が見込まれているが、連邦政府としてはさらに、警備、出入管理、オリンピック放送、その他専門官などの政府関係者の出向などの形で、約一億五千万余ドルを補助する。

警備

オリンピック期間中に世界中から訪れる何十万の人びとを守るため、モントリオール市警察、ケベック州警察、オンタリオ州警察、カナダ連邦警察（騎馬警察）、それにカナダ軍が一万余人を投入、一体となって警戒態勢をしく。

モントリオール

商業・文化・料理の国際都市

一五三五年十月二日、カナダへの第二回目の航海でセント・ローレンス川を朔（そ）航していたフランスの探検家ジャック・カルチエは、途中で大きな島を発見した。そこには、小高い丘を背にした丸太小屋五、六〇戸の村があって、ホケラガというインディアンの部族が住んでいた。カルチエは、インディアンのちが狩場にしていたその丘を「モン・ロワイエル」（英語でマウント・ロイヤル）と命名した。その島が今日のモントリオールである。

カルチエの発見から四百四十一年、

宿泊

オリンピック期間中のモントリオール訪問予定者は、推定四十万人。ケベック州政府は宿泊局——HEQUO76——を設けて、大会期間中の宿泊施設に関する情報を提供し、旅行者の相談に応じることになっている。モントリオール市では昨年から今年にかけてホテルの建設が相次いでいるほか、ユース・ホステルやトレラー・ホーム、民宿なども多いので、あまり心配はなさそう。

天候

過去九十年間の記録からすると、七月中旬から八月下旬のモントリオールは、平均気温摂氏二一・六度、平均湿度五八パーセント、風速四・三メートルで、絶好のスポーツ日和になりそう。

ポール・ド・シヨムテイ・ド・メゾヌーブ神父がカトリック植民隊を率いて入植してから三百三十余年たった現在、モントリオールは人口四百四十万（市街地を含めると二百八十万）を擁するカナダ最大の都市、商工業の中心地、フランス的雰囲気をもった国際都市へと大きく変貌した。セント・ローレンス川という、大西洋と五大湖を結ぶ自然の要路に位置するモントリオールは、重要な交通・貿易の中枢地として、また商工業の一大センターとして発展するよう、運命づけられている。